

2022/7/18

(うと Q 世話し 嫌な予感 その後) 書庫版



2, 3 日前の自分の記事で

「季節の順番が入れ替わっているような気がするので、いやな予感がする」

といったような感想を書きました処、

「季節がそう簡単に変わるなんて、そんな訳ないだろ。ちょっとした変化を針小棒大にいつて不安を煽るんじゃない」

とのご意見を頂戴いたしました。

それはそうなので、自分が「季節の順番が入れ替わっているのではないか？」と思うに至る元となった観察結果の事象がどういった場合に起こり得るかを考えてみました。

まず初めの「梅雨明け、セミが全然鳴いていない」に関しては、

6月の気温が高すぎて地中内温度も上昇し、セミの幼虫やサナギが死んでしまった可能性がありそう。

というのも6月のネットの記事で

「田んぼの水温が上がりすぎて本来赤黒い筈のザリガニがオレンジ色に変色していた。つまり茹でザリガニになってしまっていた」

というのを見た記憶があったことから仮説を立てました。

次に「秋に鳴く虫たちがもう毎日のように鳴いているのを耳にする」に関しては

6月の猛暑の後、7月に入ってから比較的涼しいと感じられる日々が続いたので、虫たちが「夏が終わって秋が来た」と勘違いをして鳴き出したという仮説。

当然虫たちはカレンダーを見て行動を起こしている筈はないので、恐らく体表で感じる温度の変化に従って鳴き始めたのではないのでしょうか。

こちらの方も最近、朝、店の前を掃除していて、季節としては7月、即ち夏の時期であるは

ずなのに矢鱈黄色く色づいた落ち葉が歩道に目につき、その枚数が結構多かったからです。何故多いという印象があるかと申せば、誠に自己宣伝丸出しの私事ながら、雨の翌日など路上にへばりついた落ち葉を掃きいれるのが大変で時間がかかりかかる事からそれを実感した次第。

勿論これらは科学者でも何でもない一介のカリー屋オヤジの物言いで、飽くまでも推測の域を出ることはありませんが、こう考えると一応つじつまは合うようです。

本来「不変の代名詞」の様な自然の運行にすら、上記の観察から見て取れるような「異変」がすでに生じ始めているのだとすると、ある意味「根本的な前提」が変わってしまう事になり得ます。

そういう意味で今までに経験したことのない大きな曲がり角に、どの国、どの地域、どの人種、どの階層だからという分け隔てなしに「我々人類は等しく皆、その曲がり角に直面している」気がしないでもありません。

人間同士、地球上の限られた π を巡って、椅子取りゲームよろしく「我勝ち、出し抜き」合戦みたいな争いを繰り返している場合ではないのではないのでしょうか。

曰く

「もうそろそろ、止めてえん、よかじゃあなかと？」

注)

写真は今年、やっとひとつ見つけたセミの抜け殻。